

日本のMayo Clinicを目指す会

日本の Mayo Clinic を目指す会 活動報告

山内 俊雄

名誉学長（日本のMayo Clinicを目指す会 担当）

埼玉医科大学では平成23年から、「日本のメイヨーを目指す唯一の大学として、埼玉医科大学を医療の本質、原点を踏まえた誇りある医科大学にしよう」という、当時の丸木清之理事長の呼びかけを契機として、教職員が一丸となってその実現に向けて歩みはじめました。

なぜMayo Clinicなのか、Mayo Clinicはどのようなことを目指してきたのか、といったことについては、すでに説明をしましたが¹⁾、この活動は決して医師や医療関係者のみの活動ではなく、本学の全教職員、あるいは何らかの形で本学と関係を持っている人たちが、等しくこのミッションを共有することが、真の「日本のMayo Clinicを目指す」ためには欠かすことの出来ないことでもあります。

そのような考えから、全体集会では、第1回から3回までは、Mayo Clinicに留学した人の体験談や、実際にMayo Clinicで仕事をされているFranklin H. Sim先生の話の聞いたり、埼玉医科大学を日本のMayo Clinicにするには具体的にどうするのが良いかをそれぞれの職域や立場から考えてみました。

その後、優れた組織といわれる「ディズニー」や「リッツ・カールトン」、「日本人にしかできない心づかい」、「新幹線清掃チーム」、といった話を、特別講演の形で伺いました。その結果、優れた組織にはいくつもの共通点があることがわかりました。それは、優れた組織は「明確なミッションと価値観を持ち」「自らの組織を誇りとしており」「そこで働く人を大切に、働き甲斐のある職場を目指している」ことがわかりました。

そこで、日本のMayo Clinicを目指すためには、

「単にMayo Clinicを模倣するのではなく、本学の特徴を生かした独自のMayo Clinicを目指す」「各組織・部門・領域の特徴を生かした、独自のMayo Clinicを目指す」ことを目標として、第7回からは、「看護」の視点、「事務」の視点、そして「薬剤師」「栄養士」の立場や、診療放射線技師、臨床工学技士、検査技師、リハビリテーションなど「メディカルスタッフ」の視点から、どのようにMayo Clinicを目指したらよいかを考えてみました。

そのような活動の中で、各職種や部署でそれぞれ独自の発想でMayo Clinicを目指す取り組みがはじめられました。また、活動の中で、自分たちの独自性を発揮し、特色ある取り組みを求める動きも生まれました。

このようなプロセスこそ、単にMayo Clinicをまねるのではなく、埼玉医科大学にふさわしい、独自のMayo Clinicを希求し、各組織・部門・領域の特徴を生かした独自のMayo Clinicの創設につながるものと思います。

そこで、これまでの成果を記録にとどめ、次のステップにつなげるために、それぞれの職種や部署での活動の状況をまとめて掲載することにしました。お読みいただくと幸いです。なお、これまでの活動の様相や全体集会の様子は本学のHPでご覧いただけますので、ご参照ください。

文献

- 1) 山内俊雄. 日本のMayo Clinicを目指す. 埼玉医科大学学内報 2011;172:4-5.